

令和 2 年度
第 1 回酒蔵ツーリズムセミナー
報告書

2021 年 3 月



公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

はじめに

全国各地域には、豊富で多様な観光資源が多数存在しており、各地域において、これらの観光資源を活用した取り組みがなされている。こうした地域資源を発掘し、磨き上げるとともに、国内外から選ばれる国際競争力の高い、魅力ある観光地域づくりを促進するために、地域のブランディングが重要であり、その実現のためには、地域の観光資源の発掘、開発、マーケティングが必要であると考えられるため、当協会では平成30年度より、テーマ別観光による地方誘客を目指し、「酒蔵ツーリズム」の推進事業に取り組んでいる。

酒蔵ツーリズムの推進に取り組むにあたり、各地の事例や酒の特色などを知り、情報交換・検討を行う場として、「酒蔵ツーリズムセミナー」を開催することとした。

今回は、「After コロナ時代に選ばれる観光地となるために」をテーマに、株式会社くまもとDMC、株式会社KURABITO STAYの取り組み事例について学び、理解を深める機会とした。全国各地では、自然災害も発生しており、酒蔵も含め甚大な被害が出ている。「酒蔵ツーリズム」が復活・復興のための手段のひとつとして、地域が一丸となるきっかけづくりを目指す。

1. 実施概要

開催日時：令和3年3月4日（木） 14時00分～16時00分

開催場所：オンラインでの開催

主催：日本酒蔵ツーリズム推進協議会（事務局：公益社団法人日本観光振興協会）

対象者：各地域の行政・観光協会・DMO関係者、民間観光事業者、酒蔵・酒造関係者
通訳案内士 等

参加費：無料

募集・告知：日本観光振興協会 ホームページ・会員向けメルマガ

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 ホームページ・Facebook・Twitterにて告知
観光業界メディアへ情報配信、日本酒造組合中央会に所属している酒蔵

実施テーマ：「After コロナ時代に選ばれる観光地となるために」

【撮影会場】 TKP 新橋カンファレンスセンター



【研修プログラム】

14：00～14：05	「開会挨拶」 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 会長 細野 助博
14：05～14：10	「来賓挨拶」 国税庁 酒税課 輸出促進室長 松井 誠二 様
14：10～14：15	「スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【食文化ツーリズム賞】特別賞」受賞のご報告 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 事務局
14：15～14：35	「令和2年度酒蔵ツーリズム調査 結果報告」 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 事務局
14：35～15：05	「熊本県における酒蔵ツーリズムの取り組み ～球磨焼酎蔵ツーリズムを中心として～」 株式会社くまもとDMC 森崎 可奈子 様
15：05～15：15	休憩
15：15～15：45	「株式会社KURABITO STAYにおける酒蔵ツーリズムの取り組み」 株式会社KURABITO STAY 代表取締役 田澤 麻里香 様
15：45～15：55	質疑応答
15：55～16：00	「閉会挨拶」 日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長 公益社団法人日本観光振興協会 理事長 久保田 穰

2. 参加者

<研修参加者>

観光関連団体・企業、酒造関連団体・企業、メディアなど 計 185 名

<来賓>

国税庁 1 名

<主催者関係>

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 1 名、日本観光振興協会 4 名

3. 研修プログラム概要

(1)「開会挨拶」

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 会長 細野 助博



(2)「来賓挨拶」

国税庁 酒税課 輸出促進室長 松井 誠二 様



(3)「スポーツ文化ツーリズムアワード2020【食文化ツーリズム賞】特別賞」受賞報告

日本酒蔵ツーリズム推進協議会

日本酒蔵ツーリズム推進協議会より、「スポーツ文化ツーリズムアワード2020【食文化ツーリズム賞】特別賞」受賞の報告を行った。

令和2年2月に東京都北区にある文化財「赤煉瓦酒造工場（旧醸造試験所第一工場）」で開催した「晴れの酒、花の宴。」での取り組みが評価され受賞した。



■「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」について

スポーツ庁、文化庁および観光庁によるスポーツ文化ツーリズムの優れた取組の評価と普及を目的として創設された賞

■受賞団体の取り組み

≪スポーツ文化ツーリズム賞≫

- ・熊野古道伊勢路と尾鷲市の歴史文化を守り活用する「おわせ海・山ツーデーウォーク」
- ・富士下山 ～富士山の知られざる魅力に出会う自然旅行～

≪文化ツーリズム賞≫

- ・日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興
- ・重要文化財の保存修理工事を観光資源化「道後温泉本館×火の鳥 道後REBORNプロジェクト」

≪武道ツーリズム賞≫

- ・世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業
- ・居合道発祥の地でサムライ体験 山形県村山市

≪日本遺産ツーリズム賞≫

- ・和歌山ジャズマラソン
- ・出羽三山の精神文化と山形交響楽団のコラボレーションによるコンサート『出羽三山シンフォニー』

≪食文化ツーリズム賞≫

- ・TOYOURA世界ホタテ釣り選手権大会 ～The world scallop fishing Championships～
- ・「晴れの酒、花の宴。」日本酒蔵ツーリズム推進事業
- ・ジオ・ガストロノミー・ツーリズム



2021/3/4

2

■「晴れの酒、花の宴。」とは

日本の醸造技術の歴史を感じながら美味しい日本酒を味わっていただくとともに、「晴れ」（非日常）と「花」を楽しんでいただくことをコンセプトに企画・演出した日本酒体験イベント

■開催日

2020年2月8日（土）・9日（日） *イベントは終了しています

■場所

重要文化財「赤煉瓦酒造工場（旧醸造試験所第一工場）」
住所：東京都北区滝野川2-6-30

■主な催し

- ・美味しい日本酒の試飲販売
- ・日本酒に合う国産チーズの販売
- ・プロジェクトマッピングの演出
- ・北区のB級グルメ龍野川やきそば

■スペシャルプログラム

- ・小野リサさんによるボサノヴァライブ
- ・ダイアン吉日さんによる落語
- ・渡邊香澄さんによる琴の演奏
- ・手島麻記子さんによる日本酒セミナー
- ・赤煉瓦酒造工場見学ツアー

■総来場者数

8,000名（2日間の合計）



2021/3/4

3

(4) 「令和2年度酒蔵ツーリズム調査 結果報告」

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 事務局

「令和2年度酒蔵ツーリズム調査」調査結果を報告。

2. 調査概要



①調査目的

「酒蔵ツーリズム」の現状と現在抱えている課題を明らかにする。

②調査主体

日本酒蔵ツーリズム推進協議会（事務局：公益社団法人日本観光振興協会 地域ブランド創造）

③調査実施先（委託先）

株式会社インテージサーチ

④協力

日本酒造組合中央会

⑤調査実施期間

令和2年11月16（月）～令和2年12月25日（金）18：00

2021/3/4

8

3. 調査結果 **酒蔵・酒造関係対象**

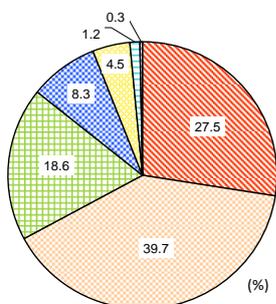


(1) 「酒蔵ツーリズム」への取り組み状況について

➤ 所属する地域が、観光産業に「積極的に取り組んでいる」は27.5%、「どちらかという積極的に取り組んでいる」は39.7%

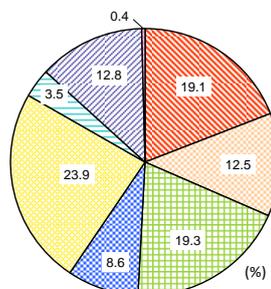
➤ 8割以上の酒蔵が観光客を受け入れている。「1,000人以上」が最も多く23.9%、次いで「100人以上500人未満」が19.3%である。酒蔵によって受入状況が異なっていることがわかる。

観光産業への地域の取組み状況



□積極的に取り組んでいる
□どちらかという積極的に取り組んでいる
□どちらともいえない
□あまり積極的に取り組んでいない
□積極的に取り組んでいない
□わからない
□不明

観光客の受入れ状況



■50人未満
■50人以上100人未満
■100人以上500人未満
■500人以上1,000人未満
■1,000人以上
■その他
■受け入れていない・わからない
■不明

2021/3/4

11

(5) 「熊本県における酒蔵ツーリズムの取り組み～球磨焼酎蔵ツーリズムを中心として～」
株式会社くまもと DMC 森崎 可奈子 様

熊本県・人吉球磨エリアにおける酒蔵ツーリズムの取り組みについて、講演。

熊本県における酒蔵ツーリズムの取り組み ～球磨焼酎蔵ツーリズムを中心として～



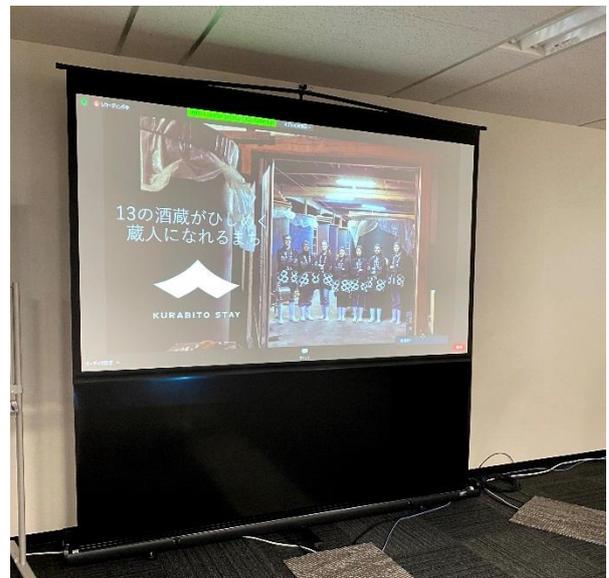
株式会社くまもとDMC
森崎 可奈子



(6) 「株式会社 KURABITO STAY における酒蔵ツーリズムの取り組み」

株式会社 KURABITO STAY 代表取締役 田澤 麻里香 様

長野県佐久市にある株式会社 KURABITO STAY の取り組みについて、講演。



(7)「閉会挨拶」

公益社団法人日本観光振興協会 理事長

日本酒蔵ツーリズム推進協議会 副会長 久保田 穰



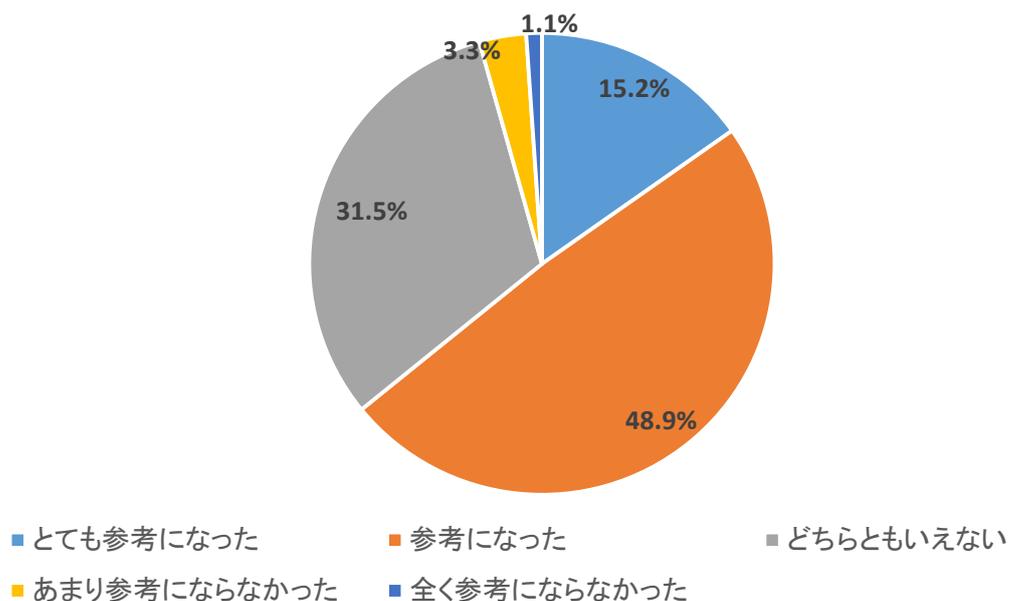
4. 参加者アンケート 修正

参加者に対するアンケートを実施。

各質問項目に関する回答は下記の通り。

(1) 「文化スポーツツーリズムアワード2020【食文化ツーリズム賞】特別賞受賞報告」 (日本酒蔵ツーリズム推進協議会) について評価

「文化スポーツツーリズムアワード2020」受賞報告について

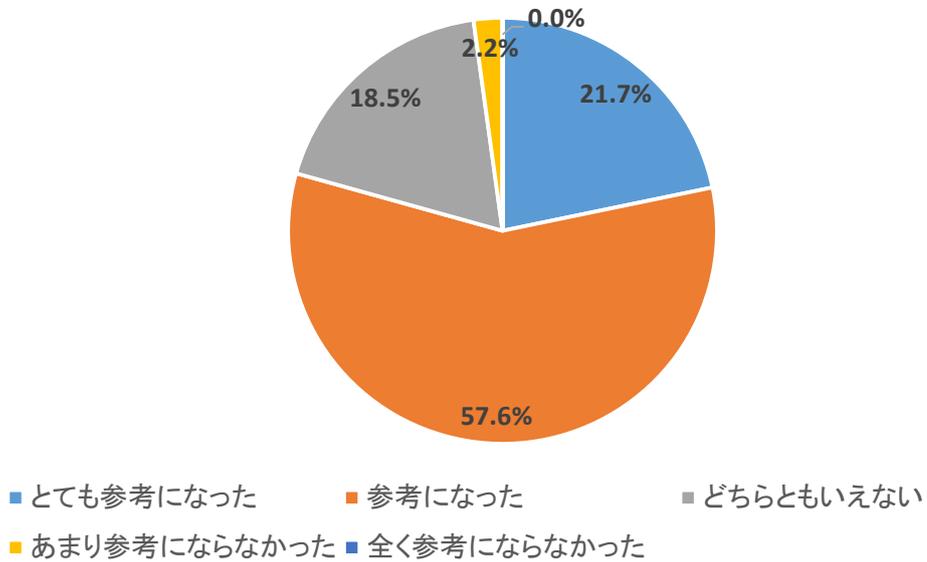


理由 (一部抜粋)

- ・ 褒める文化の醸成に活用していきたい。
- ・ 新たな視点、課題を発見することができた。
- ・ プロジェクトマッピングなど新しい表現の仕方は参考になった。
- ・ 旧醸造試験所（赤レンガ）について地域住民へ理解が深まった事は良かった。
- ・ 実際の様子がちょっとわかりにくかった。
- ・ 企画としては面白いが、イベントよりプログラム・ツアーなどを参考にしたい。

(2) 「令和2年度酒蔵ツーリズム調査結果報告」(日本酒蔵ツーリズム推進協議会) について評価

「令和2年度酒蔵ツーリズム調査結果報告」について

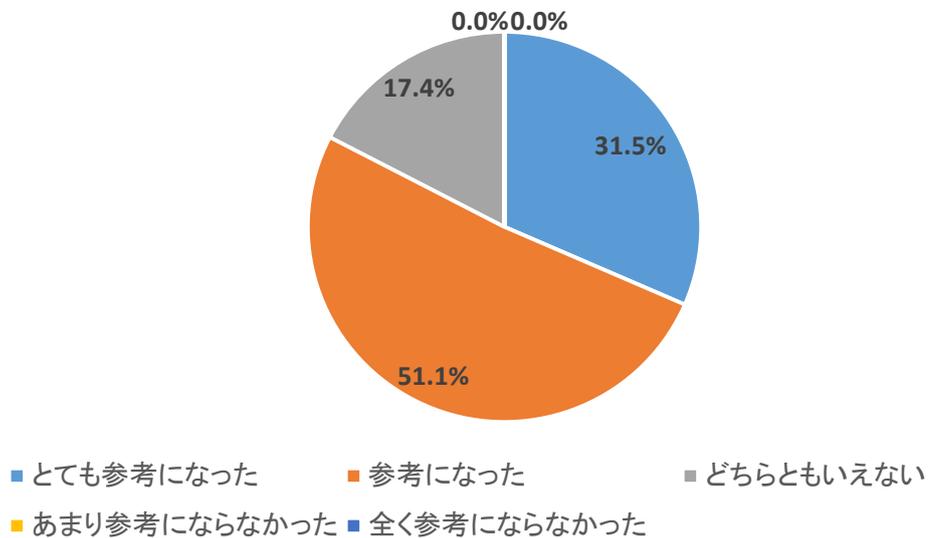


理由 (一部抜粋)

- ・ 蔵元と関わる観光自治体・団体のギャップが見えてよかった。
- ・ 思い込み、独りよがりで行進める施策ではない、と改めて認識。
- ・ 自分たちの位置が把握できた
- ・ 酒蔵見学をしている蔵がどのようなメニューを体験しているのか知りたかった。

(3) 「熊本県における酒蔵ツーリズムの取り組みについて～球磨焼酎蔵ツーリズムを中心として～」(株式会社くまもと DMC 森崎氏) についての評価

「熊本県における酒蔵ツーリズムの取り組み」について

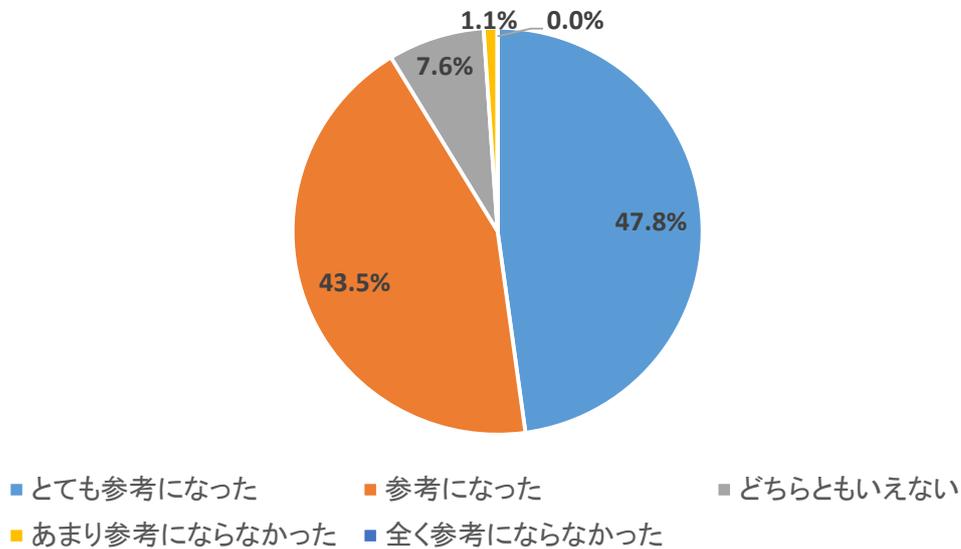


理由 (一部抜粋)

- ・ 今できることを一步一步進められていることに感心。
- ・ 事例として立ち上げから現在の動きまで具体的で参考になった。
- ・ 復興を目指し取り組んでいる様子が見られた。料金プランを数種準備するのは、今後の集客取り込みの幅がひろがると思う。
- ・ 地域の利点を十分に活用した取組み、蔵見学の体験メニューと料金設定について参考になった。
- ・ 実績をもう少し聞きたかった。

(4) 「株式会社 KURABITOSTAY における酒蔵ツーリズムの取り組みについて」(株式会社 KURABITOSTAY 田澤氏) についての評価

「株式会社KURABITOSTAYにおける取り組み」について

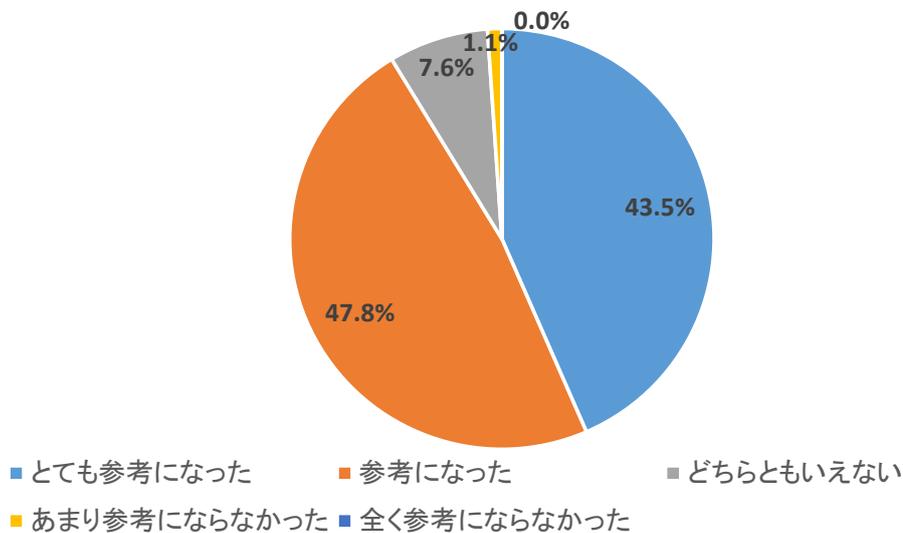


理由 (一部抜粋)

- ・ 事例として立ち上げから現在の動きまで具体的で参考になった。
- ・ 体験型イベントとして魅力ある取り組みだから。
- ・ 主婦から地域創生へのビジネス大いに参考になった。
- ・ 地域ブランドをしっかりと共有出来て体験と滞在などをしっかりと結びついている。
- ・ メーカー対応としては、なかなかハードルが高いと感じた。

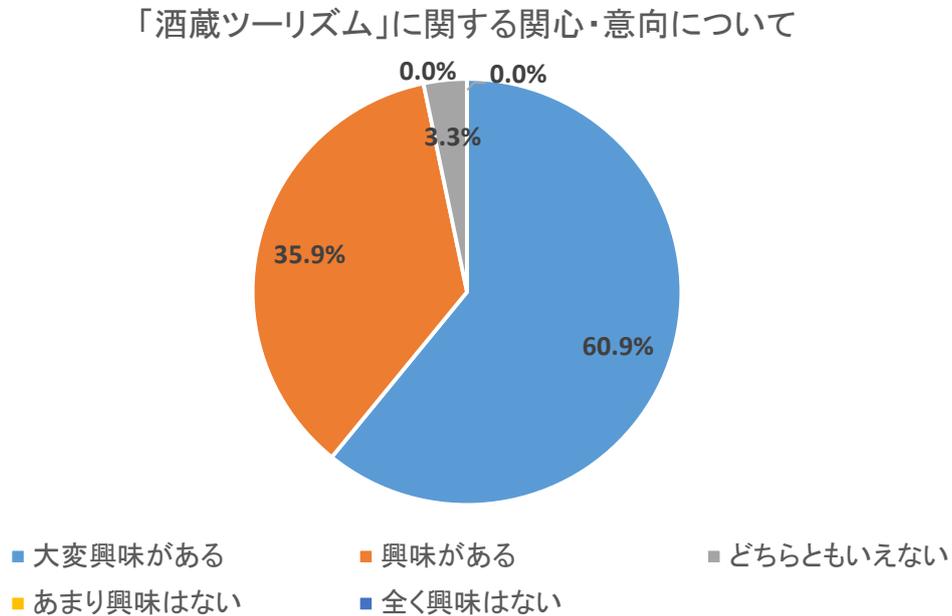
(5) 今回の研修 (全体) についての評価

今回のオンラインセミナー(全体)について



(6) 「酒蔵ツーリズム」に関するご意向

① 「酒蔵ツーリズム」への関心

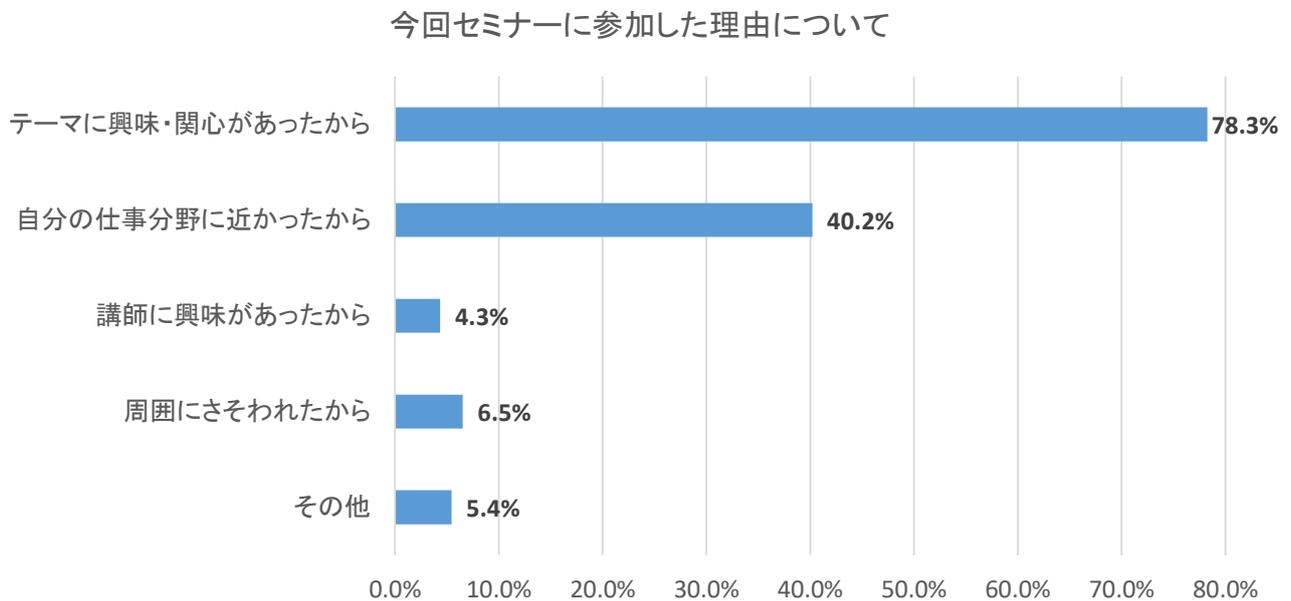


② 「酒蔵ツーリズム」に対するご意見・ご要望（一部抜粋）

- ・ 酒蔵ツーリズムを楽しむお客様（観光客）の反応が知りたい。
- ・ 日本の文化を海外に発信・体験することで、持続的成長につながってほしい。
- ・ 料金体系が難しく、いかに付加価値を付けることができるか重要。
- ・ 地元へ貢献するとともに、日本のお酒を通じて、世界へその素晴らしさを発信してほしい。
- ・ 酒蔵と郷土料理と地域文化（食文化）のストーリーに興味がある。
- ・ 酒だけでなく地域との連携で広がっていかないと喜ばれない。

(7) 「研修」に関するご意向

① 今回の研修の参加理由（複数回答）



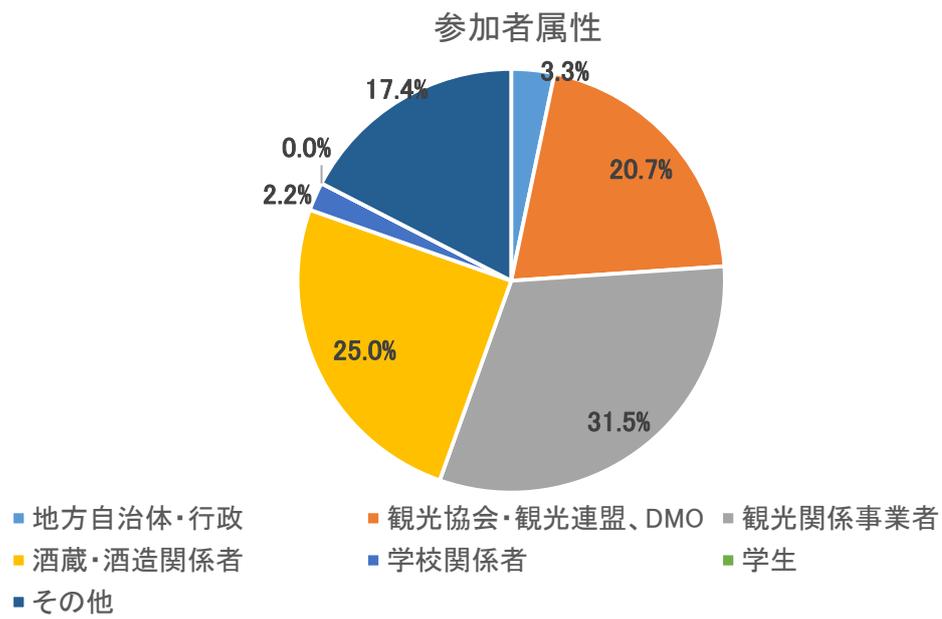
【その他（一部抜粋）】

- ・ 酒蔵ツーリズムに取り組みたいと考えているため
- ・ 市内の産業のひとつに「焼酎」があるから
- ・ 将来的に働いてみたいテーマのひとつだから

② 「日本酒蔵ツーリズム推進協議会」あるいは「日本観光振興協会」に対して、開催を希望する研修について（一部抜粋）

- ・ 他社の酒蔵見学の取り組み事例
- ・ 広域、近隣地域での観光連携
- ・ 今後のインバウンドへの取り組みについて
- ・ 日本酒以外の種類（焼酎・ウイスキーなど）における取り組み
- ・ 持続的に展開できる取り組み事例

(8) 参加者の属性



【その他】

メディア、金融関係、商工会 等

5. 総評（まとめ）

今回のセミナーは、初めてオンラインでの開催となった。全国各地から参加することができるため、セミナーには地方自治体・DMO、観光関係者、酒造関係者、通訳案内士など、これまで以上に多くの方に参加頂くことができた。

株式会社くまもと DMC では、地域特性を生かした取り組みが大いに勉強になった、ツアー企画・蔵見学の体験メニューと料金設定が大変参考になった、と高評価だった。今後地域全体で、酒蔵ツーリズムに取り組むための課題や取り組むべきことが、明らかになったのではないかと考える。

株式会社 KURABITO STAY では、地域のブランドを確立し、地域内の事業者との連携について参考になった、と高評価だった。また酒蔵ツーリズムに取り組む事業者の生の声を聴くことができ、大変有意義であったと考える。

アンケート結果から、酒蔵ツーリズムに取り組む事例を学ぶことができ、全体的に高評価を頂いた。「酒蔵ツーリズム」に対しても興味・関心が高く、受入側の整備も重要である。引き続き酒蔵ツーリズムの普及・啓発・推進活動に取り組んでいく。

今後のセミナー内容については、より具体的な取り組み・事例を取り上げていきたい。次年度以降も、このような情報共有の場としてのセミナー開催を継続・発展させていきたいと考える。

以 上